

民族薬物資料館 一般公開

民族薬物資料館の一般公開は今年で9回目を数える。例年どおり、一日5回、各回1時間、館内を案内しながら、漢方薬、和漢薬、健康食品原料、インド薬物などについて解説し、また民族薬物データベースの使い方を説明した。パネル展示として、モンゴルや中国で実施した「麻黄」や「刺五加」の調査時の写真、及びそれらに関する研究ポスターなどを掲示した。さらに、今年度インターネット上で公開を開始した「証類本草」データベースの紹介を兼ねて、「人參」の項をポスターにして掲示した。来館者は47名であった。同時に開催した講演会では、和漢医薬学総合研究所の柴原直利教授による「生活習慣病と漢方」の講演があり、身近な話題だけに興味深く傾聴する参加者が大多数であった。参加者は33名であった。

公開日：2006年10月28日（大学祭期間中）

1. 一般公開をどのように知りましたか？

新聞	2
ポスター	7
ホームページ	2
学園祭	7
人に聞いた	3
案内状	8
その他	2

2. 説明はどうでしたか？（複数回答可）

わかりやすかった	28
わかりにくかった	0
もっと詳しく知りたい	3
もっと簡単な説明がいい	0
難しかった	1
その他		

- ・アーユルヴェーダの生薬についてもっと知りたい。
- ・とても面白かった。

3. 生薬にどのような興味をお持ちですか？

- ・和漢の診療を受けているので大変参考になった。
- ・最近、処方される機会も多いため、西洋との薬の違いについて役立った。
- ・自然界の植物学が人間に支える作用について。
- ・人間の頭ではどうも考えられない神秘的な働きを感じる。
- ・なじみの深い植物を使っている薬は飲むのに抵抗が無さそうで、治療法として興味はあるが、最近の健康食品は真偽がわから

ないので背景を知りたい。

- ・和漢薬を利用したく思う。
 - ・簡単に出来る「ドクダミ」を干すときの注意点。
 - ・人体に自然に入り、これからの生活に取り入れたいと思う。
 - ・健康薬品とは違う、難しさがありました。
 - ・病気の症状によって、薬を変えなければいけないなど生薬は使うのが難しそうなので、その点を詳しく知りたい。
 - ・現地での流通や産地の違いによる良品、選品。
 - ・これからの高齢化社会、予防医療に生薬・方剤をどのように活用していくか。また、啓発活動をどう行うか。
 - ・資源としての面。
 - ・副作用が少なく、体に負担がかからない点が良いと思った。
 - ・自分でも採集できますか？
 - ・いろいろな地域のいろいろな伝統薬。
 - ・診断→処方
 - ・家にも思い当たる植物がたくさんあることがわかった。
 - ・何に効くのか、もう少し詳しく知りたい。
 - ・自然からの薬物を使用して病気、治療、人と自然の融合がすばらしい。
4. 一般公開に参加された感想を一言お書き下さい
- ・大変興味を持った。また来たいと思った、必ず来ます。
 - ・一日に何度も説明していただく機会があ

- ったのが良かった。
- ・ 未知の世界だったので、あまり詳しくなかったが少しだけわかったような気がした。
 - ・ 説明はわかりやすく、面白い話が聞けた。
 - ・ 素人だから難しかった。
 - ・ 毎回参加している。
 - ・ 詳しい説明でよかった。
 - ・ 生薬はたくさんあってなかなか覚えられない。長い間招待状をもらっていたが、初めて参加した。来年も来ようと思う。
 - ・ 説明され、実際に見て、理解できた。
 - ・ 仕事の参考にしたい。
 - ・ 様々な体験ができて良かった。
 - ・ 試食できたのが良かった。
 - ・ たくさんの生薬標本に驚いた。

- ・ もっとまめに訪れたい。
- ・ 初めて参加した。再度この機会に訪れたい。
- ・ 大変参考になった。
- ・ 楽しかった。
- ・ 粉末や錠剤の形になって目にすることが多いので、標本を見せていただいていたありがとうございました。
- ・ 「センブリ」の味はすごい。
- ・ 「センブリ」を初めて口にしたら、驚いた。
- ・ 大変良いことだと思う。市販されている薬も同様な説明が欲しい。
- ・ 再度来たい。一度ではとても把握しきれない。

(文責 小松かつ子)